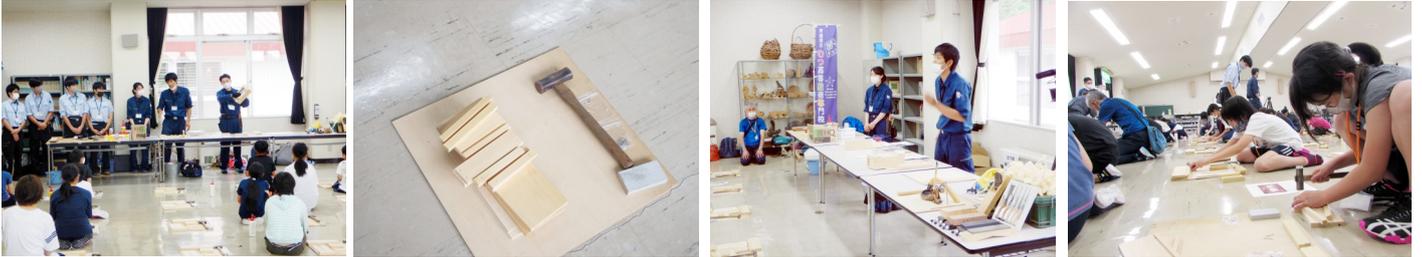


「緑の少年団交流集会」で優しい木の香りとぬくもりを感じながら木工教室を開催

令和3年7月27日(火)にむつ市下北自然の家で「令和3度緑の少年団交流集会」が開催されました。緑の少年団は、自然とのふれあいを通じて緑と親しみ緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、森林に関する知識を身につけ、健全な社会人を育成することを目的に結成された児童・生徒の自主的な団体です。今回の交流会の目的は、森林活動体験を通して子どもたちが自然に対する理解を深め、下北管内の緑の少年団の交流を深めながら、緑の少年団の活性化を図るということで、むつ市緑の少年団、風間浦緑の少年団、小目名ひばの子森林警備隊のみなさんが交流集会に参加していました。



昨年度、青森県農林水産部林政課と下北地域県民局地域農林水産部林業振興課に「青森県の森林・林業・林業の仕事」を学ぶ『林業出前講座』を開催していただいたご縁で、当校が交流集会メニューの「木工教室」で地元産ひば材を使った「ティッシュケース」づくりを担当しました。

青森県下北地域の森林・林業

下北地域の森林面積は約12万haあり、総土地面積に占める森林の割合(森林率)は83%で、県全体の65%を大きく上回っています。森林のうち、国が直接管理する国有林は約8万6千ha、個人や会社、自治体等が所有する民有林は約3万2千haで、他の地域に比べ国有林の占める割合が高いものとなっています。森林は水源の涵養や土砂災害の防止などの公益的機能があるほか、多様な生物を育み、また美しい景観や保健休養の場を提供したりするなど私たちの生活を支えています。



ティッシュケースの箱作りは、簡単なようでちょっとコツがいります。参加した子どもたちを当校の担当職員と木造建築科2年生の訓練生が箱作りの手順と釘打ち作業のサポートをしながら、約1時間でティッシュケースを完成させることができました。作業のサポートした訓練生からは、「自分が教える立場になることで、自分のコミュニケーションスキルの向上にもつながり、とてもよい経験になりました」「木工教室に参加した子どもたちが楽しそうに作業をしていたので、夏休みの思い出作りができたと思います」「今回のような出前授業をとおして、もっと分かりやすい説明をスムーズにできるようにしていきたいです」というような感想がありました。



今回の交流会に参加した緑の少年団の子どもたちは、森林体験活動をとおし、むつ市下北自然の家で自然に触れながら、自分たちで地図を読み、途中にある問題を解いてゴールを目指す追跡ハイキングを体験したり、森林の話、農村整備の話聞きながら、地域の森林について学ぶことができました。

また、木工教室では、木という材料の使い方や特性を知り、再び森と関わる楽しさや豊かさを実感してもらう上でも、直接部材となった木に触れながら木のぬくもりを感じ、木工体験しながら、ものを作ることの楽しさや奥深さ、良いものを作るためには工夫を重ねることの大切さを学ぶことができたのではないのでしょうか。当校でも木工教室や木育の活動で指導的な役割を果たせるよう、地域の関係団体と協力・連携した取組を積極的に進めていきたいと考えています。

緑の少年団交流集会に参加したみなさんが、仲間と楽しんだ今日の時間が夏休みの思い出の1ページになりますように！